(一)　矛627号　昭和27年9月25日 第三種郵便物認可　THE MIIKE　【毎週日曜日発行】　昭和35年(1960)6月12日（日）

安保・首切り粉砕！

大会は三池と安保の勝利に向って！

安保阻止国民会議は十一日から十九日までを第十八次統一行動として、安保批准阻止に全力をあげることになった。

発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市不知火町2
電話3033番 7140番
編集兼発行人 北岡隆

安保・三池に勝抜こう
第14回総評臨時総会終る

総評第十四回臨時大会は八、九両日、大牟田市民会館で異例の現地開催を行った。新安保をめぐる風雲は急をつげ、安保粉砕・国会解散を叫ぶ国民の声は、国内に沸き立ち、最後の攻撃を前にしているとき、安保と一体となって闘かわれている三池闘争も、勝利へ向っての展望も大きくひらいている。大会では十五日の全国ストライキをはじめ、三池支援カンパの強化、統一実力行動を打出し、全労働者が一丸となって安保・三池の闘いを勝ち抜く決意を強化した。

アイク訪日反対

開会午後一時二十分、「民族独立行動隊」の歌で幕をあけた。

藤岡副委員長の開会の挨拶につづき、遠藤資格審査委員長より「午後一時現在、四五組合四四五名、特別代議員一五八名が出席、大会成立を宣言する」と資格審査委員会の発表が行われた。

大会議長団に宮の原（日教組）小坂（自治労）山田（国鉄）中村（全鉱）安宅（私鉄）の五氏を選出した。

このあと大会役員選出、大会運営委員会経過報告、地元を代表して小野福岡県総評議長の歓迎挨拶が行われた。

太田総評議長の挨拶につづき社会党浅沼委員長、共産党野坂議長のメッセージが述べられ（日刊情報に掲載に付省略）、中立労連を代表して動力車労組の林副委員長は「この大会で決定されたことに対しては、全面的に実行することを御誓い申上げます」と挨拶した。

つづいて全日本農民組合野溝会長は挨拶とともに、農民のカンパ二十一億の目録を読み上げた。

つづいて主婦会の森副会長は現在までの支援の御礼と主婦の決意をのべ、失業反対市民協議会の岡本会長の挨拶と同協議会から花束贈呈が行われた。

中国全国総工会、全ソ労働組合中央評議会、インド、ユーゴなどの外国の仲間からの祝電をはじめ、この大会に寄せられた数多くの祝電が披瀝され議事に入った。

アイク訪日抗議に渡米団編成

まず、議事に入る前に、資本の対にたおれた久保さんの霊に対して全員黙祷を捧げた。議事に入るや冒頭、岩井事務局長より「アイク訪日反対の決議一案が上程された東西首脳会談が決裂に終った今、アイクの訪日は日米軍事同盟の強化であり、岸内閣を救うことになり、反対せざるを得ない。訪日強行は平和と民主主義を望む国民の不満と怒りに燃えた抗議に会い、将来の日米両国民の友好に重大な支障となる。このことを強くアイクに要求するため学者・文化人など各層の人で組織する渡米団を編成して訪日反対の抗議を行う。なお、このことは安保国民会議の場に提起する。

以上の提案を満場一致で決定した

安保と三池の闘い

今大会の重要議題である「安保及び三池闘争に関する当面の闘争方針」は岩井事務局長から提案された。

三池労組の強靱な精神が平和と民主主義を守る根底になったことは、否定できない。三池の闘いは現在全国的な「三池を守る会」の結成に伴い、民主主義擁護という性格を強く帯びてきた故のたび重なる暴挙は戦争につながることを知らせ、このことによって安保闘争は大きな段階に発展することになった。

と以上のような説明のもとに、現在までの三池闘争の経過が述べられ、三池闘争の勝利のためつぎの提案が行われた。

カンパ継続、オルグ強化

(1)昨年の臨時大会で決定した三〇〇円カンパのうち、未徴収分の一〇〇円を夏季一時金のうちから出し、これを含めて三〇〇円分の納入を六月中に完了する。なお、八月以降三池闘争がつづく限り、毎月五〇円カンパを行う。

(2)全単・全現は現在行っている三池へのオルグ派遣を引続いて強化し最低二割程度を増員する。

(3)地評が主体となって、地区労段階に至るまで「三池を守る会」を結成し、全国的に安保闘争・民主主義擁護の闘いと結合して三池闘争を発展させる。

また、安保闘争についても、六・四スト以来いらい闘いは非常な勢いで高まっており安保を粉砕して六月十七日までに解散に闘うべきである、このため

二千六百万署名へ

(1)六・四スト参加者に不当弾圧があった場合は、全労働者の力ではね返す。

(2)国民各層の人たちと共にメーデーの如き大規模な集会をひらき岸内閣に要求する。

(3)六月十七日、これまでの経験にもとづき衆知を集め、創意を発揮し、徹底的に最大多数の国民を一つの目的に結集する統一行動を行う。

(4)アイク訪日反対のためハガチー秘書に対し国民各層が電報などあらゆる手段で反対を要請する。総評としては直接会って強く反対を申入れる。

それでも訪日する場合、最大限の力を発揮して抗議する。

(5)署名は既に千五百万を超えた。二千六百万を目指すことは難事ではない。全労働者は一日間の有給休暇をとって十四日から十七日まで街頭署名、ビラまきを行う。またこれと併行して学者、芸術家に要請して全国的に討論会、座談会を組織する。

(6)総選挙体制確立のため二億円の選挙資金を目指し、一人二〇〇円カンパを行う。そしてより強力を安保を闘うため犠牲者救援のため年間五〇円のカンパを行う。

以上の提案に対する質疑は一日目に廻しこのあと全労連・全鉱共同で、会社がホツバー附近の立入禁止を地裁に申請しているので、地裁にこれを却下するよう「福岡地裁に対する行政決議」が提案され、満場一致で決定した。

15日に六・四ストを上廻る実力行使

大会二日目午前十時五分再開。総評弁護団・細谷市長のメッセージをうけ祝電披露のあと、岩井事務局長は、昨日の提案内容を一部変更して

(1)十七日の統一行動は十五日に変更し、民間労二十四時間スト、国公労八時三十分より一時間職場大会、公労協二時間職場大会地公労は国公労と同様、なお交通部門は六・四ストを上廻る実力行使を組む。

(2)ハガチー秘書に対して、羽田空港に三万人動員して抗議を最大限に発揮する。

旨の修正提案が行われ、質疑に入った。

各組合から活発な意見が出され、とくに三池闘争支援強化の強い意見が出されたのが注目された。こんご実践のなかで消化して行くこととし、執行部提案に加えて、炭労大会ご全国的規模で統一闘争を組織して、三池闘争に対する長期の構えを確立することを含めて、満場一致で原案は採択された。

ここで合化労連の提案により三池闘争に対する場内カンパ（一人最低百円）が拍手の中にきまり、つづいて祝電披露、三池労組組合員並に家族に対する激励決議が力強く行われた。

このあと、太田議長よりカンパ金七千万円と百万円相当の食糧品が拍手の中で宮川組合長に贈られ、拍手はしばし鳴りやまなかった。

つづいて宮川組合長が決意表明に立ち力強い決意をしめした。

こうして意義ある第十四回臨時大会は、安保粉砕と三池勝利を目指して、さらに全労働者の総力を挙げて闘うという画期的な決定のもとに闘いを進めることとなった。

大会宣言

総評三百六十万の労働者を代表するわれわれは、安保阻止闘争の軸である三池闘争を激励し、安保闘争を発展させるために、総評第十四回臨時大会を大牟田で開催した。

われわれはこの大会において、三池闘争の発展は第二組合にも、警官の弾圧にも負けずに、総評三百六十万の団結を信じて闘ってきた三池の労働者と家族の方々の苦労の賜であり、またこの信頼に応えてカンパと動員による支援を惜まなかった総評と中立の労働者の連帯精神の賜であることを確認し、われわれが団結すればいかなる力も労働運動の前進をはばむことができないという自信を強めた。

またわれわれは連日の国会デモや、六・四闘争の怒濤のような進撃のなかで、ますます反動化する岸内閣の暴挙は岸内閣の弱点の暴露であり、焦慮の結果であって、反動政権は国民自身の手によってまさに打倒されようとしていることを確認した。

したがってこの総評臨時大会は、われわれ三百六十万の労働者の満々たる自信と、団結力への信頼を確認しあう大会であり、こんごの洋々たる労働運動の前進を嚮いあう大会である。

われわれは、この大会決定に基づき全国民の先頭に立つて、一糸乱れぬ統一行動をますます拡大強化し、当面、アイゼンハワー大統領の訪日に反対し岸内閣を打倒し、衆議院解散を闘い取って、安保批准を阻止するために、また三井資本を屈服させて首切り撤回を勝ちとるために、最後まで闘い抜くことを宣言する。

一九六〇年六月九日

総評第十四回臨時大会